

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770200594		
法人名	株式会社ケア・ステーション		
事業所名	グループホームどき		
所在地	香川県丸亀市土器町西4丁目244番地		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 4 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームときには、この内科クリニックがあるため、お客様の健康状態は常にDr、Nsに報告し早めに対応ができる場所です。グループホームどきでは、利用者と呼ばず、お客様と呼び常に家庭に近い環境で自宅での生活に近い生活を送っていただいている。コロナ対応では、毎日のバイタルチェック1日3回消毒・手洗いうがいを実施しご家族様にも安心していただけるように報告しています。お天気の良い日は屋上にてお茶会散歩を行いリフレッシュしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770200594-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族の一員として長年一緒に暮らしていたら、看取り後の利用者の灯火が消えると、寄り添っていた頃が走馬灯のように思い出し、家族の気持ちが、痛いほど良くわかる。常に利用者に見られていて、職員の行動がよくわかっている利用者だけに、職員も目配り、気配り、心配りの観察力に余念がない。特に、いつでも心遣いがあるドクターの診察に併せて、看護師も迅速に手厚く対応して健康を心がけてくれる。厨房は、風呂、トイレ、リビングが見守りし易く、職員の配置にも余念がないのも施設の間取りからの安全へのこだわりともなっている。また、施設を管理者の色に染めたく、職員間が仲良く上手にやると自分自身が楽になることから、管理者は、声掛けと感謝を発することで、どんなに困っても皆で助け合って充実させる事ができる。「みんなで相談すれば楽しい」と、管理者は、皆でやり易いことを尋ね、管理者自身が犠牲になることで、職員は付いて来てくれるし、長く務めて頂ける。「毎日が楽しい」と職員さんも語ってくれたその言葉が聞けたことが印象的であった。管理者曰く、「私たちはまだまだ未熟なんですよ」と語り、「もっとやりたいことがいっぱいありますよ。」とも語ってくれたのも19年の長い軌跡のお陰であろう。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週1のミーティング、日々の職員同士のコミュニケーションを図り話し合いを実施、実践している。	前回の評価結果を受けて、理念は玄関にも掲げた他、リビングにも掲示している。週1回のミーティングの際に、唱和することで浸透している。職員は利用者に対して笑顔で接している姿が窺え、心得にある「忙しい時こそ、笑顔と思いやりで接すること」を実践していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため実施出来ていないが、以前は、花火大会、小学生の慰問など取り組んでいる。	町内会には加入していて、地域の情報が入ってくる。地域の方と会った際には、挨拶を交わす関係ができています。警察の訪問もあり、110番・119番の掛け方や詐欺被害に合わないように対策を教えた。どきどきフェスティバルを開催し、自治会長や2名の市会議員の参加があり、地域交流ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアステーションノ良いところ回覧で見て頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度報告、話し合い、そこでの意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	コロナ前は、包括、民生委員、薬剤師の先生、市会議員、官公庁の方が参加していた。現在は入居者の家族のみが参加。入居状況、行事内容、ヒヤリハットの報告を行った。利用者の普段の様子の写真をつけることで、中の様子がわかるとの声を頂いている。現在は、書面開催にて郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市営推進委員会などですでに意見を頂いている。	町村の窓口は、管理者が行っている。コロナ対策として、消毒液やマスクを頂いた。災害時の対策についてアドバイスを頂き、家族にも報告を行った。もう1度どきどきフェスティバルを開催したいとの思いから、自治会長と市会議員のところへ直接出向き、お願いをしたら、施設に訪問して頂くことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居して、間近のお客さまに対応しては、常に寄り添って、その人の気持ちよりそい、安心して頂いている。	身体拘束はしていない。3ヶ月に1回身体拘束適正化検討委員会を開催し、事例や今後の課題についての話し合いや、スピーチロックも取り上げた。リビングは、モニターにて利用者の様子が観察できるので、身体拘束をしていない裏付けとなっている。何かあればカンファレンスを開き、迅速に対応ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一回の研修、週に一回のミーティングなどで学べる機会を設け、スタッフ同士の声掛けを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市との交流、TELなどを活用して。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その時々、個々に応じた説明を行い、お客さま家族様に理解して頂けるよう、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望がある時には、速やかに対応。	運営推進会議の際に意見を聴取して、出た意見は電話や直接会った際に答えている。現在はコロナ禍なので、窓越しとZOOMでの面会を行っている。請求書と一緒に利用者の写真を送付している。食事風景や家族から届いた服を着た写真を送ることで、家族の方にも中の様子がわかるとの感謝の声が聞けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度対応し、上司、管理者に報告。	職員の意見は、何かあればその都度聞くようにしている。職員間の仲が良く、何でも言える関係ができていることが、利用者の笑顔や安心に繋がっている。レクがしたいと申し出た職員が中心となり作業をしているが、その間、利用者の見守りが手薄にならないように、人員配置や時間配分に工夫を凝らしていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフのやりがい、向上心に向けて、常にコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回の研修、週に一回のミーティングなどで学べる機会を設け、スタッフ同士の声掛けを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで同業者との交流無。TELで対応。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様にはGHでの生活の過ごし方など電話などで報告している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望などは、スムーズに対応、上司に報告し、速やかに対応し、信頼関係を保っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体調の変化に常に気を付ける。毎日のバイタル実施。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族様と一緒に生活出来るように常に気配り、行動の把握をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日などの写真を家族様に郵送し、TELなどで会話を楽しめている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナでお出かけは出来ないけど、ビデオなどで住み慣れた場所などの提供。	コロナ禍なのでyoutubeを活用して、昔馴染みの場所の映像を映し出すことで外出した気分を味わえている。職員が帰る際に利用者から「さよなら。また明日。おや」と声をかけられ、今ではすっかり馴染みの人となり、病院から帰ってきた利用者が「みんながおるわー」と言葉を発し、ここが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客さまが仲良くコミュニケーションを図れるようにスタッフの気配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	見学会など常に声掛け、家族様などに今の生活などTELで訪ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に自分の母父を思い、声かけを意識している。	入居時に生活歴の確認をしたり、家族から意見を聞き取ったりしている。職員は利用者一人ひとりに寄り添った介護を目指し、日々取り組んでいる。出た意見は、口頭で伝えるだけでなく、申し送りノートにも記入することで情報の共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族様に聞き取りをして把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れ、その人に合った対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常にミーティング、ケアマネ同席の上計画を立てている。	介護計画は入居時に、ドクターの面談と家族の意向を参考にして、ケアマネジャーを中心に暫定プランを作成し、何もなければ半年毎に見直している。月1回モニタリングを実施している。職員はリビングの見えるところで作業をすることで、利用者の様子が把握しやすくプランに反映させやすい。	健康を維持できるように、施設内でできることを模索してみたいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日に起こった、ヒヤリなどはその日のうちに見直しをする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	思いやりその人に合ったサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は地区の方など招き交流会を開いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1FにHPがある為毎日のバイタル報告を実施している。	母体の病院に全員が転医されている。24時間365日体制で診て頂けるだけでなく、医院が施設の1階に併設されているので、利用者、職員の安心に繋がっている。毎日のバイタルチェックもあり、健康管理もできている。看取りに期に差し掛かった方がいたが、母体の病院と連携することで、スムーズな病院への搬送ができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署との交流などネットワークにして活用。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	HPと常に体調について連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けては、Dr. スタッフ、家族様との信頼が一番でチームで取り組んでいる。	看取りは実施していて、先月看取りも行った。看取りに期に差し掛かった方がいたが、母体の病院と連携することで、スムーズな病院への搬送ができた。入居時に重要事項説明を行い、意思確認書にて同意を得ている。救急搬送や心臓マッサージなどの希望を聞き取ることで、迅速な対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、家族様が必要となるのでこまめに体調の報告をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアステーションノ良いところ回覧で見て頂くにて災害の訓練を行い、お客さま一緒に参加。	年2回、併設する施設合同で、火災・災害対策で実施。利用者も合同で実施した。玄関にハザードマップ、事務所に緊急連絡網を掲示している。備蓄は倉庫に水と乾パンを1ヶ月分、倉庫に保管している。自動販売機は災害時でも使用できる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの意思を高めるため、週に1回のミーティングをしている。	職員は感謝の気持ちを持って、利用者をお客様として扱っている。呼称は基本苗字に「さん」付けで呼んでいるが、反応がいい場合は「お父さん」や「お母さん」と呼ぶこともある。朝礼時のミーティングで、夜間での対応やヒヤリハットの確認することで、利用者に寄り添う介護ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その要望に対し、すぐに対応し、本人が気持ちの良い生活ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、その都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客さまが着たい物、つけたい物を付けれるようにその都度対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事は出来ないが、準備、片付けなどを一緒にやっている。	朝は施設内で調理し、昼と夜のみ併設する厨房から食事が届く。食事形態も利用者の食べやすいように工夫してあった。食事中は会話が弾み、「美味しいです」の一言が聞けた。3月の行事食として、押し寿司の提供があり、普段おかゆを食べている方もパクパクと食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人毎日記録し、その人に合った量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご家族様の希望によりクリニックがはいり、口腔内を清潔に保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合わせた排泄支援を行っている。定期的なトイレ誘導。	トイレは3ヶ所あり、扉も広く車イスでも入りやすい。排泄チェック表に記録は残しているが、利用者の表情や仕草から察知して、トイレ誘導を行っている。ポータブルトイレの使用者はいない。排泄失敗時には、さりげなく「そのまま構わんよー」と言葉をかけて自尊心を傷つけないように配慮している。	今でも十分にできていますが、トイレ誘導にもう一工夫凝らしてみたいかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人は、-2日でDrの指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人さまが入りたい時、入れるよう支援し個々にあった入浴を実施している。	入浴は週3回。利用者の状況に合わせて、夜の入浴も可能。シャワー浴や足浴も提供していて、掛け湯も同時に行っている。体調が悪い場合には、清拭をすることで清潔感が保たれている。新しく入られた入居者の方も安心して入浴することができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝したい人はお昼寝もされ、その時々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が理解し、服薬支援を行い変化にも目を向けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため外出は出来ないが、屋上での散歩、お茶かいなどで気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は出来ないが屋上にて日光浴など実施。	夏には、屋上から花火大会を眺めたり、ユニット合同でお祭りを開催し、利用者が楽しんでた。現在は、youtubeを活用して、馴染みの場所の映像を映し出すことで外出した気分を味わえている。どきどきフェスティバルを開催し、地域の方や他の施設の職員や家族も招待することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があれば、すぐに対応、上司に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、すぐに対応、上司に報告し、電話や手紙でのやり取りを実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日1日2回の清掃を取り入れ、常に清潔に保っている。	午後からは、口腔体操とトイレ誘導の後のティータイムが楽しみとなっている。洗濯物量みや洗い物を手伝ってくれる利用者もいる。厨房から、リビングの様子が見えるので、何かがあるとすぐ駆けつけることができ、利用者は安心して、有意義な生活を過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に行かれる方、ホールにて他のお客さまと過ごされる方様々であり、個々にあった対応をして、お客さま個人にあった居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃を欠かさず行い、お客さまが過ごしやすい環境づくりに努めている。	備え付けは、ベッド、クローゼット、エアコン。居室は光が差し込み、明るく開放感があった。窓の外から広大な飯山(さぬき富士)やレオマワールドの遊園地の観覧車が見え、利用者の癒しとなっている。安全面に考慮して、床に低反発マットを敷いて寝ることで、安眠に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは全て排除し、お客さまが安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770200594		
法人名	株式会社ケア・ステーション		
事業所名	グループホームどき		
所在地	香川県丸亀市土器町西4丁目244番地		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 4 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームときには、この内科クリニックがあるため、お客様の健康状態は常にDr、Nsに報告し早めに対応ができることです。グループホームときには、利用者と呼ばず、お客様と呼び常に家庭に近い環境で自宅での生活に近い生活を送っていただいている。</p> <p>コロナ対応では、毎日のバイタルチェック1日3回消毒・手洗いうがいを実施しご家族様にも安心していただけるように報告しています。</p> <p>お天気の良い日は屋上にてお茶会散歩を行いリフレッシュしています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770200594-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族の一員として長年一緒に暮らしていたら、看取り後の利用者の灯火が消えると、寄り添っていた頃が走馬灯のように思い出し、家族の気持ちが、痛いほど良くわかる。常に利用者に見られていて、職員の行動がよくわかっている利用者だけに、職員も目配り、気配り、心配りの観察力に余念がない。特に、いつでも心遣いがあるドクターの診察に併せて、看護師も迅速に手厚く対応して健康を心がけてくれる。厨房は、風呂、トイレ、リビングが見守りし易く、職員の配置にも余念がないのも施設の間取りからの安全へのこだわりともなっている。また、施設を管理者の色に染めたく、職員間が仲良く上手にやると自分自身が楽になることから、管理者は、声掛けと感謝を発することで、どんなに困っても皆で助け合って充実させる事ができる。「みんなで相談すれば楽しい」と、管理者は、皆でやり易いことを尋ね、管理者自身が犠牲になることで、職員は付いて来てくれるし、長く務めて頂ける。「毎日が楽しい」と職員さんも語ってくれたその言葉が聞けたことが印象的であった。管理者曰く、「私たちはまだまだ未熟なんですよ」と語り、「もっとやりたいことがいっぱいありますよ。」とも語ってくれたのも19年の長い軌跡のお陰であろう。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週1のミーティング、日々の職員同士のコミュニケーションを図り話し合いを実施、実践している。	前回の評価結果を受けて、理念は玄関にも掲げた他、リビングにも掲示している。週1回のミーティングの際に、唱和することで浸透している。職員は利用者に対して笑顔で接している姿が窺え、心得にある「忙しい時こそ、笑顔と思いやりで接すること」を実践していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため実施出来ていないが、以前は、花火大会、小学生の慰問など取り組んでいる。	町内会には加入していて、地域の情報が入ってくる。地域の方と会った際には、挨拶を交わす関係ができています。警察の訪問もあり、110番・119番の掛け方や詐欺被害に合わないように対策を教えた。どきどきフェスティバルを開催し、自治会長や2名の市会議員の参加があり、地域交流ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアステーションノ良いところ回覧で見て頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度報告、話し合い、そこでの意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	コロナ前は、包括、民生委員、薬剤師の先生、市会議員、官公庁の方が参加していた。現在は入居者の家族のみが参加。入居状況、行事内容、ヒヤリハットの報告を行った。利用者の普段の様子の写真をつけることで、中の様子がわかるとの声を頂いている。現在は、書面開催にて郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市営推進委員会などですでに意見を頂いている。	町村の窓口は、管理者が行っている。コロナ対策として、消毒液やマスクを頂いた。災害時の対策についてアドバイスを頂き、家族にも報告を行った。もう1度どきどきフェスティバルを開催したいとの思いから、自治会長と市会議員のところへ直接出向き、お願いをしたら、施設に訪問して頂くことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居して、間近のお客さまに対応しては、常に寄り添って、その人の気持ちよりそい、安心して頂いている。	身体拘束はしていない。3ヶ月に1回身体拘束適正化検討委員会を開催し、事例や今後の課題についての話し合いや、スピーチロックも取り上げた。リビングは、モニターにて利用者の様子が観察できるので、身体拘束をしていない裏付けとなっている。何かあればカンファレンスを開き、迅速に対応ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一回の研修、週に一回のミーティングなどで学べる機会を設け、スタッフ同士の声掛けを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市との交流、TELなどを活用して。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その時々、個々に応じた説明を行い、お客さま家族様に理解して頂けるよう、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望がある時には、速やかに対応。	運営推進会議の際に意見を聴取して、出た意見は電話や直接会った際に答えている。現在はコロナ禍なので、窓越しとZOOMでの面会を行っている。請求書と一緒に利用者の写真を送付している。食事風景や家族から届いた服を着た写真を送ることで、家族の方にも中の様子がわかるとの感謝の声が聞けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度対応し、上司、管理者に報告。	職員の意見は、何かあればその都度聞くようにしている。職員間の仲が良く、何でも言える関係ができていることが、利用者の笑顔や安心に繋がっている。レクがしたいと申し出た職員が中心となり作業をしているが、その間、利用者の見守りが手薄にならないように、人員配置や時間配分に工夫を凝らしていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフのやりがい、向上心に向けて、常にコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回の研修、週に一回のミーティングなどで学べる機会を設け、スタッフ同士の声掛けを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで同業者との交流無。TELで対応。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様にはGHでの生活の過ごし方など電話などで報告している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望などは、スムーズに対応、上司に報告し、速やかに対応し、信頼関係を保っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体調の変化に常に気を付ける。毎日のバイタル実施。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族様と一緒に生活出来るように常に気配り、行動の把握をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日などの写真を家族様に郵送し、TELなどで会話を楽しめている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナでお出かけは出来ないけど、ビデオなどで住み慣れた場所などの提供。	コロナ禍なのでyoutubeを活用して、昔馴染みの場所の映像を映し出すことで外出した気分を味わえている。職員が帰る際に利用者から「さよなら。また明日。おや」と声をかけられ、今ではすっかり馴染みの人となり、病院から帰ってきた利用者が「みんながおるわー」と言葉を発し、ここが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客さまが仲良くコミュニケーションを図れるようにスタッフの気配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	見学会など常に声掛け、家族様などに今の生活などTELで訪ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に自分の母父を思い、声かけを意識している。	入居時に生活歴の確認をしたり、家族から意見を聞き取ったりしている。職員は利用者一人ひとりに寄り添った介護を目指し、日々取り組んでいる。出た意見は、口頭で伝えるだけでなく、申し送りノートにも記入することで情報の共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族様に聞き取りをして把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れ、その人に合った対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常にミーティング、ケアマネ同席の上計画を立てている。	介護計画は入居時に、ドクターの面談と家族の意向を参考にして、ケアマネージャを中心に暫定プランを作成し、何もなければ半年毎に見直している。月1回モニタリングを実施している。職員はリビングの見えるところで作業をすることで、利用者の様子が把握しやすくプランに反映させやすい。	健康を維持できるように、施設内でできることを模索してみたいかでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日に起こった、ヒヤリなどはその日のうちに見直しをする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	思いやりその人に合ったサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は地区の方など招き交流会を開いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1FにHPがある為毎日のバイタル報告を実施している。	母体の病院に全員が転医されている。24時間365日体制で診て頂けるだけでなく、医院が施設の1階に併設されているので、利用者、職員の安心に繋がっている。毎日のバイタルチェックもあり、健康管理もできている。看取りに期に差し掛かった方がいたが、母体の病院と連携することで、スムーズな病院への搬送ができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署との交流などネットワークにして活用。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	HPと常に体調について連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けては、Dr. スタッフ、家族様との信頼が一番でチームで取り組んでいる。	看取りは実施していて、先月看取りも行った。看取りに期に差し掛かった方がいたが、母体の病院と連携することで、スムーズな病院への搬送ができた。入居時に重要事項説明を行い、意思確認書にて同意を得ている。救急搬送や心臓マッサージなどの希望を聞き取ることで、迅速な対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、家族様が必要となるのでこまめに体調の報告をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアステーションノ良いところ回覧で見て頂くにて災害の訓練を行い、お客さま一緒に参加。	年2回、併設する施設合同で、火災・災害対策で実施。利用者も合同で実施した。玄関にハザードマップ、事務所に緊急連絡網を掲示している。備蓄は倉庫に水と乾パンを1ヶ月分、倉庫に保管している。自動販売機は災害時でも使用できる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの意思を高めるため、週に1回のミーティングをしている。	職員は感謝の気持ちを持って、利用者をお客様として扱っている。呼称は基本苗字に「さん」付けで呼んでいるが、反応がいい場合は「お父さん」や「お母さん」と呼ぶこともある。朝礼時のミーティングで、夜間での対応やヒヤリハットの確認することで、利用者に寄り添う介護ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その要望に対し、すぐに対応し、本人が気持ちの良い生活ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、その都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客さまが着たい物、つけたい物を付けれるようにその都度対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事は出来ないが、準備、片付けなどを一緒にやっている。	朝は施設内で調理し、昼と夜のみ併設する厨房から食事が届く。食事形態も利用者の食べやすいように工夫してあった。食事中は会話が弾み、「美味しいです」の一言が聞けた。3月の行事食として、押し寿司の提供があり、普段おかゆを食べている方もパクパクと食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人毎日記録し、その人に合った量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご家族様の希望によりクリニックがはいり、口腔内を清潔に保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合わせた排泄支援を行っている。定期的なトイレ誘導。	トイレは3ヶ所あり、扉も広く車イスでも入りやすい。排泄チェック表に記録は残しているが、利用者の表情や仕草から察知して、トイレ誘導を行っている。ポータブルトイレの使用者はいない。排泄失敗時には、さりげなく「そのまま構わんよー」と言葉をかけて自尊心を傷つけないように配慮している。	今でも十分にできていますが、トイレ誘導にもう一工夫凝らしてみたいかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人は、-2日でDrの指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人さまが入りたい時、入れるよう支援し個々にあった入浴を実施している。	入浴は週3回。利用者の状況に合わせて、夜の入浴も可能。シャワー浴や足浴も提供していて、掛け湯も同時に行っている。体調が悪い場合には、清拭をすることで清潔感が保たれている。新しく入られた入居者の方も安心して入浴することができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝したい人はお昼寝もされ、その時々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が理解し、服薬支援を行い変化にも目を向けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため外出は出来ないが、屋上での散歩、お茶かいなどで気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は出来ないが屋上にて日光浴など実施。	夏には、屋上から花火大会を眺めたり、ユニット合同でお祭りを開催し、利用者が楽しんでた。現在は、youtubeを活用して、馴染みの場所の映像を映し出すことで外出した気分を味わえている。どきどきフェスティバルを開催し、地域の方や他の施設の職員や家族も招待することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があれば、すぐに対応、上司に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、すぐに対応、上司に報告し、電話や手紙でのやり取りを実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日1日2回の清掃を取り入れ、常に清潔に保っている。	午後からは、口腔体操とトイレ誘導の後のティータイムが楽しみとなっている。洗濯物量みや洗い物を手伝ってくれる利用者もいる。厨房から、リビングの様子が見えるので、何かがあるとすぐ駆けつけることができ、利用者は安心して、有意義な生活を過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に行かれる方、ホールにて他のお客さまと過ごされる方様々であり、個々にあった対応をして、お客さま個人にあった居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃を欠かさず行い、お客さまが過ごしやすい環境づくりに努めている。	備え付けは、ベッド、クローゼット、エアコン。居室は光が差し込み、明るく開放感があった。窓の外から広大な飯山(さぬき富士)やレオマワールドの遊園地の観覧車が見え、利用者の癒しとなっている。安全面に考慮して、床に低反発マットを敷いて寝ることで、安眠に繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは全て排除し、お客さまが安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				